

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

～ 改革と周知 ～

第67号

2021.3



附属坂出学園では、先生方のご尽力のおかげで、子供たちは多くのことを学び、大きな成長を遂げています。

今日、私たちを取り巻く環境は刻々と変化し、未来を担う子供たちに求められる力は多様化しています。このような中、子供たちが夢に歩を進めるために更に必要なことは、地域・企業・保護者の皆様のサポートであると感じています。地域等と共に子供たちを支援し、幸せな未来を創造することが、附属坂出学園の存在価値であると考えています。

附属坂出学園コミュニティスクール・コーディネーター 植田 博司



今年度は新型コロナウイルス感染症に始まり、終息の気配を見せないまま終わろうとしています。特別支援学校では、臨時休業期間中の5月より段階的にオンラインでの朝の会や学習の試行が始まりました。友達の顔や先生の声に接することが何よりの安心につながるということを、子をもつ親として感じられたと同時に、これまでに気付くことのなかった「学校が果たしてきた役割」の大きさに、改めて感謝した1年でした。

附属特別支援学校 親和会会長 石川 博文

新型コロナウイルス感染症の影響に負けない取組

～「今は何もできない」決してそうではありません！～

幼稚園



三密を避けた生活発表会



オンラインで大根パーティー

指定観覧席を設けて実施した生活発表会。収穫した大根メニューを弁当にして持ち寄った大根パーティー。幼稚園と保護者が協力し合って子供たちの経験を保障しています。

小学校



分散型授業参観



オンライン型授業参観

授業参観も密を避ける工夫をしながら実施しています。2学期は、少人数で時間を区切って参観する分散型。3学期はPC等で視聴するオンライン型の授業参観となりました。

中学校



城山山頂から見た桜島



屋久島・黒味岳へ登頂

密を避け、こまめに検温、消毒を行うなど、万全の感染予防対策のもと、修学旅行を実施しました。例年とは違う行程や内容になった部分もありましたが、屋久島の大自然を感じ、鹿児島島の歴史や文化にふれ、思い出に残る貴重な体験や活動ができました。

特別支援学校



ふれあい祭りでの発表や接客の様子



ふれあい祭りは、校内関係者のみで行いました。バザーの内容や利用方法を変更するなど時間を短縮しましたが、児童生徒は準備・練習してきたことに落ち着いて取り組み、充実した一日を過ごすことができました。

○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

これまでの友達と一緒に生活する中で築いてきた心地よさのため込みが基盤となり、友達と一緒に生活を心から楽しめるようになってきました。毎日楽しむ中で大好きになったかくれんぼでは、互いに誘い合って集まり、大勢で楽しめるようになっていきました。また、自分のしたい遊びにじっくりと取り組みたいと願う気持ちも育ってきており、だからこそ、互いの思いの違いからぶつかり合うこともあります。そんなときも、なんとか自分の思いを伝えたり、友達の思いに耳を傾けようとしたりしながら、自分たちなりに遊びを進めていこうとする姿が見られます。

さらなる成長のために、子供一人一人が、安心して自分を表出できる雰囲気をつくり、認め合いながら遊ぶことの楽しさを十分に味わう体験を保障していきたいと思っています。



只今、鬼決め中

【年中児】

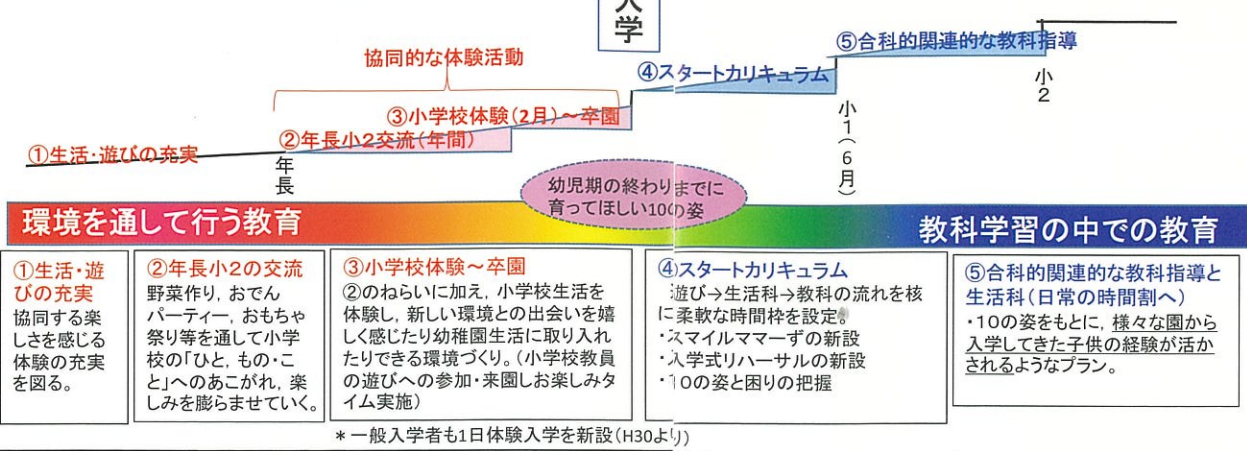
寒い日が続く中でも、サッカーや鬼ごっこなどで思い切り体を動かし、大勢の友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じています。はじめは、「うまく出来ない」「負けるのが嫌だ」と諦める姿がありましたが、何度も挑戦していく中で「もっと上手になりたい!」と自分なりにめあてをもって遊ぶようになりました。その中で、遊び方やルールの違いから互いの思いがぶつかり合う体験をしています。自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、よりよい方法を見付けていこうとする力も身に付いてきています。

また、一緒に遊んでいる教師に認めてもらった自分の頑張りが成長が喜びとなり、「さらに伸びていきたい」と挑戦していく姿もあります。



僕たちで、ゴールを守るぞ!

学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



③ 小学校体験～卒園

【年長児】

3学期がスタートした日、小学校の藪内副校長先生から小学校への入学を認める合格通知書をいただきました。名前を呼ばれ、受け取りに行く子供たちの顔は、うれしい顔、ドキドキする顔、照れる顔など、それぞれでした。



合格おめでとう!

入学まで残り3ヶ月の園生活では、小学校という場所や人に触れ、自分なりに入園を楽しみに感じたり、「大丈夫!」と自信をもったりできる経験を大切にしています。

今年は交流活動が難しい状況でしたが、校庭で思い切り遊ぶ時間をつくりました。すると、出発前に「一輪車を持って行こう!」「ボールが必要だな」と懸命に準備する姿がありました。安心して物を持ちつつ、新しい場所に挑もうとする心がすてきです。小学校の門をくぐると「給食のいいにおいがするね」「先生が手を振ってくれてうれしい!」と、直接的な交流はなくても、様々な発見や思いをもっていました。

幼稚園へ帰って来たときは、小学校での体験を取り入れて自分なりに小学校への思いを表現しながら遊ぶ姿がありました。



小学校を作ったよ!

⑤ 合科的な教科指導と生活科

1年生の生活科では、冬休みに楽しんだ遊びについて交流し、こま回しやたこ揚げ等、昔から伝わる遊びがたくさんあることに気付きました。家族にその遊び方やコツを教してもらって楽しく過ごした子供たちは、それらの遊びを次の世代にも伝えていきたいという思いをもち、まだまだあまり経験したことのない遊びにも興味をもって、おはじきやけん玉の遊び方を工夫したり、手作りの羽子板等を作って楽しんだりしました。かるたやすごろく作りでは、これまでの学校生活で楽しかった出来事や友達との関わりについて絵や文字で表現している子供たちがたくさんいました。完成したかるたやすごろくで遊びながらこの一年を振り返る中で、2年生に進級することへの期待を膨らませるとともに、新しい1年生を迎える喜びも大きくなってきた子供たち。「次の1年生が安心して入学できるように、小学校のことを教えてあげたい」そんな思いをもって、次の1年生を迎える準備をしています。



けん玉を楽しむ1年生



手作りのすごろくを楽しむ

○ 教科学習の中での教育へ

⑤ 合科的関連的な教科指導と生活科

2年間の生活科の集大成として、子供たちは「自分の物語」を作っています。自分自身の成長を振り返りながら、自分らしい成長の記録を作ることにより、自分のよさに気付いたり、自分の役割が増えたことを自覚したりしています。今年一年間を振り返り、「縄跳びがた



自分で物語を作る

くさん跳べるようになったよ」「友達が一緒に練習したり教えてくれたりしたからだよ」と自分自身の成長に関心をもち、得意なことや自慢したいことを見付けました。また、1年生の頃と比べて「自分だけで電車で乗って登下校ができるようになったよ」「一人でできるようになったことがたくさんあるね」と、自分や友達の成長に気付きました。そして、お家の方の協力を得て、赤ちゃんの頃からの自分を調べる中で、「何日も熱を出していたことがあるな」「私もお母さんが看病してくれたんだよ」「僕は、おばあちゃんが迎えに来てくれた」と、自分が大きくなったり、自分のできるが増えたりした背景には、家族や友達など多くの人の支えがあったことにも気付いていきました。子供たちは気付きを基に、それらの人に感謝の気持ちを伝えていきたいという思いを高めています。今後の自分自身の成長に願いをもち、意欲的に生活していくことにつながればと思います。

友達の意見をもらう



自分の成長と周りの人の支えに気付く

小5 総合的な学習の時間「LOVE香川」

5年生は総合的な学習の時間で、香川の文化について追究しました。1学期には香川の文化について個人で調べを進め、うどん、うちわ、和三盆など多様な文化があることを知りました。



うどん作り

2学期には、その中でも特に親しみ深いうどんを、自分たちで作る計画を立てて活動を進めました。例年は附小フェスタで保護者に食べてもらっているのですが、今回は残念ながら、自分たちで食べる形となりました。1度目に作った反省点を生かしながら、さらにおいしいうどんを作ろうと改良している姿が見られました。

3学期には、これまでしてきたことを基に、さらに追究したいテーマを決めました。例えば「小麦粉の種類を変えると、うどんの味や食感はどう変わるのだろうか」や「いりこやかかつおなどの中で、うどんのだしをとるのは、何が一番おいしいのだろうか」、「オリーブをおいしく簡単に食べられる料理について」などです。実際に調理したり、アンケートをとったりしながらテーマについて追究を進めていきました。

小4 総合的な学習の時間「心通わせて」

4年生は、特別支援学校の友達とビデオレターで交流しました。1学期には、特別支援学校の鈴木教頭先生のお話を聞き、友達の個性をきちんと知り、友達に合った手助けをすると、お互いに楽しく関わられることを学びました。そして、友達の好きなことを参考にし、1回目の遊びを紹介するビデオレターを作りました。



協力してビデオレターを撮影する4年生

2学期は、特別支援学校の先生からのアドバイスをいただき、もっとよい遊びになるように、遊びの内容や紹介の仕方を見直しました。例えば、魚釣りゲームのグループでは、「水槽をもっとリアルにすると盛り上がるかも」「実際に遊んでいるところをビデオに撮ると分かりやすいと思う」「一人一人に釣り竿を作ると、みんなで楽しむもらえるかも」などと、もっと楽しんでもらえるような工夫を協力して考え、ビデオレターを完成させました。もうすぐ特別支援学校の友達から返事が返ってきます。どんな結果になったかみんな楽しみにしています。

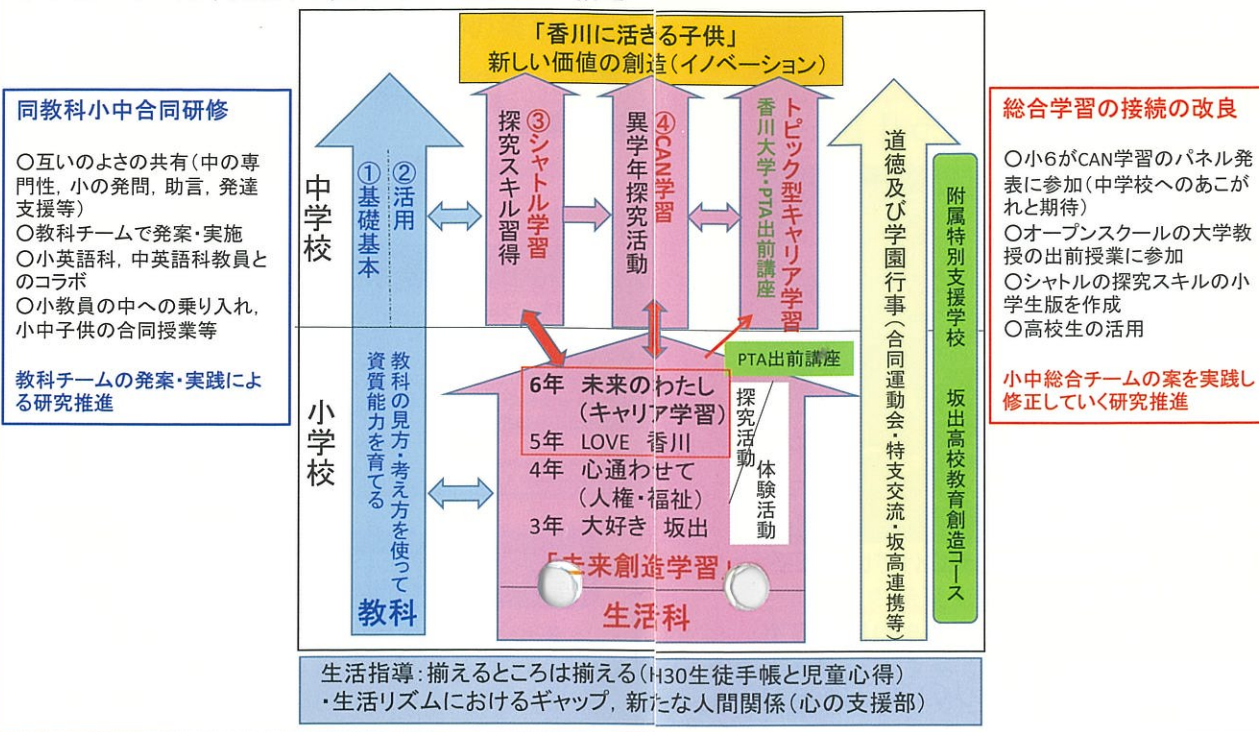
小3 総合的な学習の時間「大好き坂出」

3年生は、坂出市のよさについて調べを進めてきました。まず1学期に社会科で学習したことを基に、もっと調べたいことについて話し合いました。そして、「学校の周りを歩いた時に見た日の出製麺所はどんな店なのだろう」「坂出市では、どんな作物が育てられているのだろうか」「坂出市の自然について調べたい」といった課題を設定しました。その後、実際に見学に行ったり、インターネットを使ったりして調べていきました。3年生にとって、インターネットを使っての調べは初めてだったので、検索の仕方や情報の選び方なども学びました。調べて分かったことをグループごとにまとめ、12月に東組と西組合同で、発表会を行いました。調べた内容や発表方法について、友達のよさを見付けられ、学びを深める機会となりました。今後はこれまで調べて分かったことを基に、坂出市の未来について考えていきます。



坂出市のよさについての発表会

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



<めざす子供の姿>

- 自主・自律
- 共生・協働
- 探究・創造

より深い探究をめざした教師のかかりと個の成長の見取り

令和3年度のCANが、2月1日にスタートしました。昨年度から使用している「探究深化シート」と「ToDoリスト」を継続して活用し、さらに新しい総合学習シャトルとも連携することで、より深い探究が行えるよう、教師がかかわっています。また、教師が個に着目し、その生徒の活動記録や語りを残していくことで、個の成長を見取り、CANのなかでどのような資質・能力が身に付いたのかを明らかにしていこうと考えています。



自分たちの考えてきた探究課題について語り合う生徒たち(第1回目)

「新シャトル」がスタート

総合学習シャトルのねらいは、教科学習における活用とCANにおける探究とをつなぐことです。これまで、シャトルは一般講座(1月と2月)と特設講座(7月)に分けて実施していました。今年度は、CANとの



シャトルで探究しながらスキル(仮説の立て方)を学ぶ

接続を考えて、講座内容と全体の枠組みの見直しを図りました。具体的には、CANが始まる前(または初期)に身に付ける探究スキルと、探究中に必要な探究スキルを改めて整理し直したうえで、「新シャトル」として前期8講座、後期8講座の全16講座を用意し、前期、後期でそれぞれ2講座ずつを選択して受講する形にしました。新シャトル前期講座は、令和3年1月下旬から実施しています。後期講座は、6月下旬から7月上旬に実施予定です。

前期講座	身に付ける力	後期講座	身に付ける力
①発想法	I 課題設定力	④質問力	II 課題追究力
②困りを発見する力		⑤情報の分析	
③電話・メールマナー	II 課題追究力	⑥キャッチコピー	III 表現力
④アンケート		⑦プレゼンテーション1	
⑤ロジカルシンキング		⑧プレゼンテーション2	
⑥仮説を立てる力	IV チームマネジメント力	⑨視覚化	⑩グラフの見せ方
⑦コミュニケーション力		⑪動画編集	

前期と後期の全16講座

共創型探究学習CANについて

最優秀賞「青雲賞」に選ばれた生徒へインタビュー

Q: CANの探究は自分にとってどのようなものでしたか?

A: 「素の自分」を遺憾なく発揮できる場でした。自分でテーマを決め、試行錯誤しながら探究をすることで、自分自身の道を切り開くことができました。そうすることで、思考力や問題を解決する力がついたと思います。



令和2年度 青雲賞に輝いた生徒

【探究課題】
例の信号を何とかできないの課

Q: 後輩へのメッセージは?

A: CANはライトなしで暗闇を歩いているようなものなので不安は大きいと思います。しかし「できたかどうか」よりも「やったか」を大切に突き進んでください。応援しています。

第20回教育研究発表会

子供たちは、様々な場面で図形や図形概念に触れながら生活をしています。そこで、算数・数学科において、発達段階に応じた「図形を扱う学習内容」について検討して実践を行いました。

小学部

【ことば・かず「見て、触って、身の回りの形を見付けよう」】

片付けをしたり物を並べたりするなど、普段の生活の中で物の形を意識する場面は多いです。物の形を意識するためには、様々な形に触れたり、操作したりして図形感覚を養っておくことが必要になります。そこで、小学部では「身の回りの物の形を見付けよう」という学習を行いました。写真を見て形を見付けたり、実際に物を触って形ごとに分類したりする活動に取り組みました。また、型はめパズルや図形の構成パズルに取り組みすることで、図形に親しむことができるようにしました。授業を終えて、子供たちは、食缶の片付けや体育用具の片付けで、形を意識して片付けられるようになりました。



写真を見て形を見つけている様子

中学部

【数学科「形をぴったりはめよう～よせる・まわす・グルリのスゴ技～」】

中学部数学科Bグループでは、「三角形や四角形の定義を知り、それらの図形を操作して新たに形を作ったり枠内に敷き詰めたりすることができる」ことをねらい、色板をケースに敷き詰める学習活動を行いました。また、文房具が印刷された色板を引き出しの中に敷き詰める課題を行うことで、生活の片付けに学習がつながるようにしました。

生徒たちがネーミングした「よせる・まわす・グルリ」のスゴ技を使って、試行錯誤しながら図形の敷き詰めに取り組み、図形の知識や思考力を高めることができました。



色板を敷き詰めている様子

高等部

【職業数学科「平行な見えない線をイメージして整えよう」】

高等部職業数学科A2グループは、卒業後の仕事に役立つ図形領域の力という観点から、「平行な見えない線をイメージして整えよう」という題材を設定しました。仕事場面において、シール貼りの際に側面の辺を基準にしてシールを貼ったり、商品を載せる台車などを移動しやすいように整列させたりするなど平行を使って作業をする場面が多く見られます。そこで、基準線を定め、それに対して平行な見えない線をイメージする力が付くことできれいに貼ったり並べたりするなど仕事場面で活用できる機会が増えると考えました。本題材の学習に取り組むなかで、「～だから平行」と説明できるようになったり、掲示や配置などの作業について、平行の「精度」が向上したりするなど、「平行」をより意識した場面が見られるようになりました。



平行にイスを並べている様子

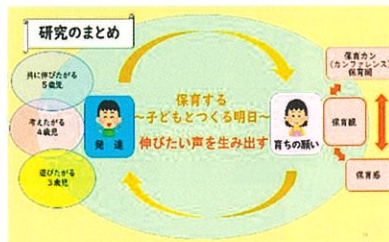
研究発表会等の様子

幼稚園

1月29日(金)、初めてオンラインで研究発表会を行いました。本年度は「保育する皿～子どもとつくる明日」をテーマに3年間の研究をまとめました。

子供主体の生活を保障するため、保育者もまた保育の主体として自らを振り返り、共に成長していく保育者集団であることを大切にしてきました。そして「子どもの声」と「自分の声」を聞きながら子供たちの育ちを支える中で、自分自身の変容・子供たちの発達を見出し、研究報告を行いました。

保育公開はありませんでしたが、私たちの普段の思いや気付きをありのまま提案したことで、地域の保育者の「子供主体の保育がしたい」「保育者として自らも伸びていきたい」という願いに即した協議となりました。



オンラインによる分科会

小学校

本年度の研究発表会は、コロナ禍であることや、参加される先生方の学校における授業時間確保のため、オンラインによる配信で実施しました。初めての試みでしたが、県内外から3日間で約650名の方が当日参加をしてくださり、研究会後の動画視聴も多くの方にいただきました。

実践事例提案では、授業の各場面におけるメタ認知を促す働きかけや個の発達に応じた支援等について説明し、たくさんのご意見をいただきました。また、シンポジウムでは、自己肯定感とメタ認知との関係、子供たちの学びの場等について議論していただき、今後の教育の在り方について考えることができました。今回の成果を基にさらに研究を深めたいと思います。



研究会での提案の様子

中学校

6月に予定していた研究発表会は、感染症の大きな影響により、誌上発表となりました。6月以降は、これまでの実践を振り返り、改めて「学びを自己に引きつけるとはどういうことか」、「教科の本質は何か」、「各教科における探究とは何か」などについて話し合い、次期研究発表会に向けての方向性を確認しました。それらを踏まえ、10月からは各教科で研究授業を行い、実践を重ねています。これらの実践から、見えてきた課題を洗い出し、令和4年度の研究発表会につなげていきたいと考えています。



特別支援学校

1月30日(土)に、第20回教育研究発表会を行いました。新型コロナウイルス流行のため、ミーティングアプリを使ってオンラインでの開催となりました。全体会では「子供たちの学びをつなぐ」をテーマに教育、福祉、行政の分野からの話題提供、分科会では3年間の各学部の取組についての発表を行いました。児童生徒に育てたい力の育成につながる系統的なカリキュラム・マネジメントについて、提案できたのではないかと思います。

初めてのオンライン開催で不安な中準備を進めてきましたが、参加者から「遠方からも参加しやすい」「今後の新しい研究会の形になるのでは」と好評の声をいただきました。今回の経験を生かし、新しい時代に合った研究の在り方も検討していきたいと思っています。



オンラインによる分科会



学校保健委員会～子供をネット・ゲーム依存から守るために～

まず、幼小中の支援体制について紹介します。
学園では、SC（スクールカウンセラー）4名と、SSW（スクールソーシャルワーカー）1名が勤務しています。そのうち3名は、幼小中いずれか2校園を兼務していることから、子供・保護者ともに、経年的かつ継続的な支援を行うことができています。そのため、進学時には、学校間の引き継ぎをスムーズに行うことができています。

本学園の大きなポイントは「縦と横のつながり」です（「縦」は、幼稚園・小学校・中学校、「横」は、各学校の教職員・保護者）。この縦と横のつながりを活かし、「心の支援」について共通理解を図る活動ができないかという考えから実施しているのが、幼稚園・小学校・中学校合同の学校保健安全委員会です。

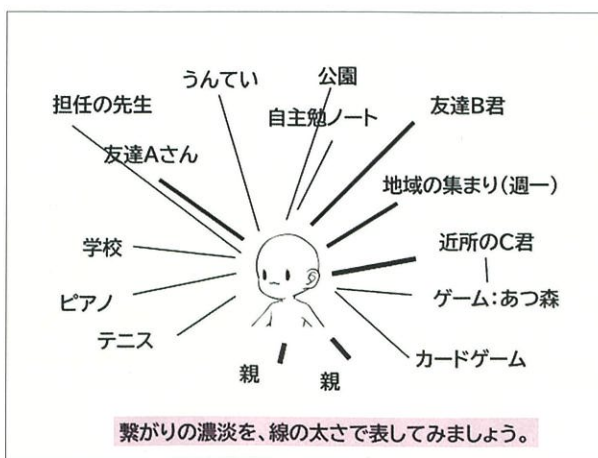
学校保健安全委員会は、養護教諭・SC・SSWが中心となり、企画及び運営をしています。実施回数は毎年2回で、夏と冬に1回ずつ行っています（令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、冬に1回のみ実施）。参加者は、幼稚園・小学校・中学校の教員と保護者、そして、SCやSSW同様、小中全体を兼務して下さっている学校医の先生にも参加していただいています。



佐藤融司学校医による講話

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休校や外出自粛等の措置がとられました。その間、ストレスを抱える子供が多数いた反面、家にいる時間が多くなってしまったことから、全国的に見るとネットやゲームに依存してしまった子供も少なくありません。子供のネット・ゲーム依存に悩む保護者の方も多くいらっしゃいました。そこで、令和2年度は、「子供をネット・ゲーム依存から守るために～親としてできること、いま考えよう～」をテーマに、SCとSSWが講話をしました。まずは、事前に子供に実施していた「ネット・ゲームの使用時間」「よく使用するアプリ」などのアンケート結果を提示し、子供の実態を発表しました。その後、SC・SSWより、ゲームをするにしても叱るのではなく、ルール作りを行うこと、そして何より、親子間での頻繁なコミュニケーションをとることの大切さについて話をしました。その後、校種を交え、ワークショップ形式で、「子供のためにできそうなこと・やってみようと思うこと」について意見交流をしました。参加していただいた保護者の方々からは、「子供とのつながりを増やし、ゲームではなく、家庭内に子供の居場所作りをしてあげたいと実感しました」「ネットやゲームと上手く付き合いつつ、それ以外にも夢中になれることを見つけられるよう、たくさんの経験をさせたいと思いました」という感想をいただくことができました。また、内容とは別に、「校種を越えて、幼稚園や中学校の保護者の方と意見交流でき、様々な意見を取り入れることができ参考になりました」等の意見もいただくことができました。

今後も、本学園ならでの、縦と横のつながりを大切に活動を行っていききたいと思います。



繋がりの濃淡を、線の太さで表してみましょう。

子供を取り巻く環境



参会者の様子



SC・SSWの講話

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休校や外出自粛等の措置がとられました。その間、ストレスを抱える子供が多数いた反面、家にいる時間が多くなってしまったことから、全国的に見るとネットやゲームに依存してしまった子供も少なくありません。子供のネット・ゲーム依存に悩む保護者の方も多くいらっしゃいました。そこで、令和2年度は、「子供をネット・ゲーム依存から守るために～親としてできること、いま考えよう～」をテーマに、SCとSSWが講話をしました。まずは、事前に子供に実施していた「ネット・ゲームの使用時間」「よく使用するアプリ」などのアンケート結果を提示し、子供の実態を発表しました。その後、SC・SSWより、ゲームをするにしても叱るのではなく、ルール作りを行うこと、

ユニバーサルデザインの視点に立った授業のヒント

授業では、学ぶことがしっかり決められています。1年生の国語では、ねらいの一つに「物語の場面のつながりを考えながら、場面の様子や登場人物の行動を捉える」ことがあります。すべての子供たちがこのねらいを達成するために私たち教師はユニバーサルデザインの視点で授業づくりを行います。

例えば、写真のように物語の本文を5つに分けて記したカードを用意します。このカードを、並べ替えながら「どの順番で読んでいくのが一番が好きか」考えていきます。そうすることで、友達と話し合いの場面では、「僕はこの順番にすると、女の子の気持ちがだんだん大きくなっていくと思うよ」「でも、何だか悲しい感じもするよ。楽しいお話にするために最後に雨が『大好き』な女の子にしたらいいと思うよ」などと、ねらいに迫る様子が見られます。



カードを使って順序を考える



カードを使って話し合う

ここで、大切なのは授業のねらいに子供たちの活動を導くこのカードのような働きかけです。大人が「考えなさい」と言っても子供は考えられません。子供たちの年齢に合った手がかりと活動をシンプルに示すことですべての子供たちがねらいに向かうユニバーサルデザインの授業となります。これが、附属坂出学園の授業のよさの一つです。

附属特別支援学校のセンター的役割の紹介④

ホームページでの情報発信

特別支援学校は地域の特別支援教育のセンター的役割を担っています。附属特別支援学校では、『やまもも相談センター』を立ち上げ、「相談」「研修・参観」機能に加えて、「情報提供」機能の充実に力を入れています。現在、ホームページで「やまもも教室」の案内や、支援ツールの使い方などの紹介をしています。今年度から、YouTubeチャンネル「やまももチャンネル」を開設しました。今後、支援ツールやICT機器の活用例などの動画版をアップするなどして、情報を積極的に発信していこうと考えています。



本校HP「やまもも相談センター」

4つの支援ツールの活用



支援ツールの紹介ページ

幼稚園

パン作り

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、今年は開催できるか不安でしたが、開催を希望する声が多く聞かれたため、2日間に分け、勤労福祉センターにて三密を避けて開催しました。2種類のパンとデザートを作り、おみやげに持ち帰ったパンは子供たちと一緒においしくいただきました。パンを作りながら、保護者間のコミュニケーションをとることができ、とても楽しい時間を過ごしました。



勤労福祉センターでパン作り

読み聞かせ活動

年中児保護者ボランティアによる読み聞かせが、本年度も開催されました。近隣の図書館を利用し、季節の絵本や紙芝居など子供たちが喜びそうなものを選んでいきます。読み聞かせ当日は少し緊張もありますが、真剣に耳を傾ける子供たちのキラキラ輝く目を見ていると、元気をもらえる瞬間です。



赤組の子供たちと一緒に

交通安全一斉パトロール

正門前の横断歩道で旗を持ち、交通安全を呼びかけました。「飛び出さない」「左右の安全確認をする」など、命を守るために大切なことを、親子で再確認しました。また、元気のよい挨拶が響き渡り、降園時の短い時間ではありましたが、大切な時間となりました。



親子で安全を確認しながら

小学校

租税教室

2学期には、6年生を対象に税務署の方が租税教室を行っていただきました。消費税は子供たちにとって身近なものですが、それ以外にも所得税や相続税などたくさんの種類の税があることを知ることができました。「もし税金がなくなったら…」ということについても、映像も交えて、分かりやすく教えていただきました。税金があることで、自分たちの生活が守られていることを知り、税金の大切さを学ぶことができました。



租税教室の様子

保護者によるキャリア教育

卒業を目前に控えた2月。6年生の保護者の方によるキャリア教育が行われました。お話ししてくださったのは、「フォトグラファー」の方とフィットネスインストラクターをしながら自らを「脱おばさん体型プロデュース専門家」という肩書きをつくられた方の2名でした。仕事内容ややりがいなど、仕事をしている人にしか分からないことについてお話しいただきました。子供たちは「自分のしていることが誰かのためになるのがやりがいなんだ」「自分もやりたいことを追究して仕事にしたい」など、将来について考えていました。



キャリア教育の様子

中学校

保護者による進路学習、大学出前授業

1,2年生を対象に保護者による進路学習を、3年生を対象に大学出前授業を実施しました。実際にお仕事をされている保護者の方々や香川大学で研究をされている先生方のお話からは、その職業や研究のやりがいや魅力を感じることができ、将来の進路や生き方などについて考える良い機会となりました。授業を行っていただいた保護者や大学教授の皆様には、お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。いくつかの講座について、生徒の振り返りを紹介します。

- ・理学療法士の仕事は、けがや病気の人のリハビリをするだけでなく、スポーツ選手と関わったり、高齢者の認知症予防のための取り組みを行ったりしていることを初めて知りました。また、リハビリは患者さんとのコミュニケーションがとても重要になるのだと知り、もっと詳しく知りたくなりました。(進路学習)
- ・私も将来、教育系の仕事に就きたいと思っています。今日は幼稚園の先生という仕事について、たくさんの発見がありました。一番印象に残ったのは「発達」についてです。3歳から5歳にかけて、いろんな心の成長もありました。普通なら「ダメじゃないの?」と思うこともいっぱい受け入れて、一度見守ってあげることがその子の成長につながるんだなあと思いました。園児と一緒に毎日成長できる先生になりたいです。(進路学習)
- ・私は獣医師という仕事にあこがれています。動物とコミュニケーションをとるのが難しく、言葉を発さないので、1つ1つの判断が大切だと思いました。ますます獣医師への興味が深まりました。(進路学習)
- ・先生のお話を聞いて、人生についてたくさん学べました。ガンディーは国という大きな単位で平和のためにずっと運動していた人だけど、元は普通の私達と何も変わらない子供時代もあったと聞き、驚きました。だから、私達も小さなまとまりからでも平和のために活動できるのかなと思うようになりました。ガンディーの非暴力・非服従の考えは、改めて素晴らしいものだと思います。暴力に対して暴力で対抗してもそれが負の連鎖となり、ずっと続いてしまう。暴力を絶つには同じことをしてしまっただけでは意味がない。という考えにすごく納得しました。現代の対抗手段として、力には力という考えが普通ですが、そう思わない考えに驚きました。また、不正義に対して従わない。自分の正義に従うという考えもすてきだと思いました。私も身近な平和のために、小さな努力を積み重ねていきたいと思えます。(大学出前授業)



保護者による進路学習(1,2年)



大学出前授業(3年)

ゆかた着方教室、高齢者疑似体験(家庭科の授業)

10月に、「NPO法人和装教育国民推進会議」の方々に協力していただき、和服や日本文化について関心を深めるため、「ゆかた着方教室」を実施しました。また、11月には、「公益財団法人かがわ健康福祉機構」の方々に協力していただき、高齢者理解や高齢者との関わり方を考えるきっかけ作りとして、高齢者疑似体験講座を実施しました。授業を受けた生徒の感想の一部を紹介します。

- ・実際に着てみると意外と簡単で、『これなら手軽に着られるかな』と思った。浴衣を着ると、ピシッと引きしめる感じで、気持ちが落ち着いてとてもよかったです。
- ・日本の文化は美しい点や機能性にも優れている点などで素晴らしいと思いました。
- ・現代の人は着物を全然着ないので、着物のよい所を伝えて、全世界の人が一回は和服を着て、『これすごいな』と思わせたいです。



ゆかた着方教室(1年)



高齢者疑似体験(3年)

- ・この体験で体の不自由さが分かったからこそ、接し方に気を配りたいと思いました。耳が聴こえにくいといった理由でイライラせず、高齢者に寄り添っていきたくです。
- ・いつも僕は祖父母に『なぜ、こんなことすらできないんだ』と不満をもっていたのだけれど、この体験から、自分の考えがとても間違っていたことに気付くことができました。

松 韻 会

エコ販売

松韻会では、幼小中連携の活動組織を活かし、4月の松韻会総会で制服のリサイクル販売を行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で販売を見合わせていましたが、2月6日(土)、小学校にて、幼小中合同のエコ販売を開催することができました。しっかりと感染予防対策をとり、新しいスタイルでの案内となりました。販売を利用された方からは、「会場を分けて商品を置いているので、例年よりゆったり買い物ができた」という感想をいただきました。

エコ販売の売上金はすべて子供たちのために使われています。制服のご提供や購入をしてくださった保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

土曜メンテナンス

今年の「土曜メンテナンス」は、コロナ禍のため、例年とは違って人数制限や時間短縮等の対策を講じながら、各学校園で行いました。1月15日には、幼稚園の遊具のペンキ塗りや砂場の整備、庭木の剪定など、戸外を中心にメンテナンスを行いました。お父さんの参加により、普段の清掃では手の回らない箇所メンテナンスを行うことができました。穏やかなお天気の中、実施することができ、参加者同士の絆を深める時間となりました。



新しいスタイルでの販売



OYGによる砂場の整備

親 和 会

代表者会について

特別支援学校でも、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学校行事やPTA行事など様々な活動が制限されてきました。親和会ではそんな中でも今できることは何か、と考えて取り組んできました。代表者会では、大人数で集まることが難しい状況も鑑みて「ZOOM」によるオンライン開催に取り組みました。初めての人ばかりだったので、当初は学校の協力を得て会議室を分けて少人数から進めていきました。資料の準備不足やハウリングなど明らかになった課題をその都度改善しながら取り組み、年度末には役員それぞれが自宅から参加できるようになりました。

8月に行われたオンラインでの四附連代表者会で他県と情報交換したところ、「ZOOM」による代表者会の開催に取り組んでいるのは本校だけということでした。今後、行事や会員相互の関係づくりなど新たな課題もありますが、児童・生徒が安心して楽しく学校生活が送れるよう、活動していきたいと思えます。



「ZOOM」による代表者会の様子

編集後記

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が多方面に及んだ一年でした。附属坂出学園でも、伝統の合同運動会が中止になるなど、行事や子供たちの学びの環境が大きく変化しました。そのような中でも、常に前を向いていたのが子供たちでした。子供たちのために「学びを止めない」「新たな学びをつくり出そう」と、地域や保護者の方々と教職員が、共に歩んだ一年だったようにも思います。より深まった「絆」。どのような状況においても、子供たちの学びのために協力していく附属坂出学園のありようは、とても貴重だと思います。

今後とも、附属坂出学園の充実と発展のために、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

発行年月日：2021年3月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園